

機関番号：32653

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19730441

研究課題名（和文） 植込み型除細動器患者の心理的適応と認知行動療法的心理教育の
効果に関する研究研究課題名（英文） Psychological Effects of Implantable Cardioverter Defibrillator
Toward Patients and effect of Cognitive Behavioral Therapy

研究代表者

小林 清香 (KOBAYASHI SAYAKA)

東京女子医科大学・医学部・臨床心理士

研究者番号：40439807

研究成果の概要（和文）：致死的不整脈に対し植込み型除細動器（ICD）を用いている患者を対象に、①不整脈およびICD作動と不安・抑うつとの関連を調べ、②ICD作動への不安に焦点を当てた認知行動療法的心理教育プログラムを試みた。新規デバイス植込み患者22名について植込み前から1年間の追跡調査を行った。この1年間にICD作動を伴う循環器的イベントが生じたものは3名であった。作動経験者と非経験者の間には、植込み時点でも植込み後1年の時点でも抑うつ・不安・QOLなどに有意差は認めなかった。追跡期間中に不安や不適応状態の強まった2名に認知行動療法的心理教育を行い、一定の効果を得た。

研究成果の概要（英文）：

Implantable cardioverter defibrillators (ICDs) are life-saving devices in treatment of lifethreatening arrhythmia. First, we conducted a prospective 1-year cohort study to examine the relationship between the presences of ICD shock and the emotional status in Japanese patients with ICD. Twenty-two patients before the implantation of ICD were included in the study. ICD shocks occurred in 3 of the 22 patients in 1-year after the implantation of ICD. No significant differences were detected in scores of depression, anxiety, or QOL between patients with and without ICD events at the both time of before and 1-year after the ICD implantation. Second, we successfully performed psychoeducation based on the cognitive behavioral therapy for anxiety and unadjusted behaviors in two patients who had significant emotional distress in the follow-up periods.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	0	700,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	420,000	2,520,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・循環器内科学

キーワード：致死性不整脈・植え込み型除細動器・ICD・認知行動療法・心理教育

1. 研究開始当初の背景

本邦での突然死の60%以上は心臓突然死であり、そのうち7割以上は心室細動などの致死性不整脈が直接的原因とされる。致死的不整脈の高リスク者への突然死予防と生命予後の向上のために植え込み型除細動器 (Implantable Cardioverter Defibrillator ; ICD) は重要な治療法となる。しかし、ICDは体内植え込み型で除細動時に自動的に電気放電するという特性を持つため、作動経験者のQOLの低下 (Kamphuis HC et al., 2004) や、PTSD症状の出現 (Neel M, 2000) など、心理的負荷が生じることも無視できない。一方で、うつ病は心室性不整脈に対するICD作動のリスクを増大させる (Whang W et al, 2005) など、抑うつや不安から不整脈発作への影響も指摘されている。また、我々の調査では、ICD患者の約6割に発作への不安に伴う広場恐怖や覚醒亢進などの症状が見られ (小林他、2002)、「作動が起きそうな活動や場所を避ける」などICDに関連する回避的行動が維持される患者では抑うつ状態も継続している可能性が示唆されている (渡邊他、2006)。ICD患者においては心理的負荷と循環器的安定は双方向的に考えられるものの、心理的問題がICD植え込みや作動によって生じたのか、患者の個人特性によるものかという点もまだ明らかになっていない。

ICD患者の心理的問題に適切な介入を行うことは、致死性不整脈発作の減少や心機能の安定につながる可能性がある。欧米では認知行動療法によって、ICD患者の不安や抑うつの低減に効果があるとされている (Frizelle DJ, 2004)。ICDへの過度の不安から生じる広場恐怖や回避行動に焦点を当てた認知行動

療法はICD患者の長期的な抑うつの改善やQOLの向上に有効と考えられるが、欧米と本邦のICD対象者では背景疾患や心機能などが異なるため、本邦独自の問題の把握とそれに準じた援助方法を整備する必要がある。また、心理的問題を呈するICD患者は少なくないことから、ある程度定型化されて使いやすい支援方略が立てられることが必要で、多くのコモンディジェーズに適用されている心理教育的手法を援用することも有効と考えられた。

2. 研究の目的

致死的不整脈に対してICDを用いた治療を行っている患者 (以下ICD患者と略記) を植え込み前からプロスペクティブに追い、不整脈発生およびICDの電氣的作動と不安や抑うつとの関連を明らかにすること、ICDへの不安からQOLが低下している患者に認知行動法的心理教育を試みることを目指した。

3. 研究の方法

対象：新たにICD植え込みとなる循環器疾患患者のうち、植え込み時に65歳以下、MMSE (Mini-Mental State Examination) 26点以上の者。

調査方法：患者自記式調査および構造化面接およびカルテからの医学的情報

調査項目：心理状態としてSDS、STAI-X、QOL (SF36)、MINI、ICDに対する不安調査票。

医学的情報として心機能 (エコー、NYHA、BNPなど) 基礎心疾患、心疾患罹病期間、ICD作動状況など

調査時期：植え込み前1週間以内・退院後1ヶ月後・6ヵ月後・1年後

倫理的配慮と対象者からの同意：研究の実施

は学内の倫理委員会の承認を得た。研究の趣旨説明と協力の依頼は対象者ごとに文書を用いて行い、十分な理解を求めた上で文書による同意を得た。

4. 研究成果

本研究への協力に同意した新規デバイス植え込み患者は 24 名で、視力低下による調査票回答困難など身体的な理由で 2 名が対象から外れ、22 名（平均年齢 50.1 歳 SD10.1）について植込み前から 1 年間の追跡調査を行った。追跡調査を完了したものは 15 名であった。対象者 22 名のうち 8 名 (36.4%) が女性、突然死の一次予防のためのデバイス植込みは 16 名 (72.7%)、抗不安薬を内服している者は 2 名、MINI による精神疾患の診断に該当するものは 1 名（広場恐怖を伴うパニック障害の既往）であった。

ICD 植込み前に ICD 利用への不安について訊ねたところ、70%以上の対象者が「作動が起こりそうな場所や活動を避ける」、50%以上の対象者が「一人のときや外出時に作動が起きるのではないかと不安」「誤作動や作動時の衝撃が怖い」「薄着になる ICD が目立つのではないかと述べ、ICD の機能、特性に対する懸念は術前から存在することが確認された。また、植込み後 1 年目の調査に回答した 15 名のうち、やはり 50%以上が上記と同様の項目に当てはまると回答し、さらに「ICD 植込み部分の違和感」が気になると述べ、ICD に対する心配は植込み後にも維持されるものと考えられた。

ICD 植込みから 1 年以内に ICD 作動を伴う循環器的イベントが生じたものは 3 名であった。この 3 名と作動を経験しなかった他の対象者の間に、植え込み時点で SDS、STAI、SF-36、MINI による精神疾患罹患歴などに有意差は認めなかった。また、植込み後 1 年時点での

SDS、STAI、SF-36 においても、循環器的イベント経験者と非経験者の間に有意な得点差は認めなかった。

追跡期間中に循環器主治医および精神科医によって認知行動療法的心理教育プログラムの適応と判断された患者は 2 名であった。1 名は ICD 頻回作動後に強い不安を呈した。もう 1 名は心疾患の悪化を恐れて過剰な生活制限を行っており、主治医が対応に苦慮した患者であった。プログラムでは ICD 患者の体験する不安をノーマライズするような情報提供、認知行動モデルによる問題の概念化、リラクゼーション、認知再構成法、生活拡大プランの計画と実行などを行った。介入後には作動や病状への不安による活動範囲の過剰な縮小、未来の短縮した感覚などが緩和し、主治医からも適切な療養行動が行えるようになったとの評価が得られた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

- ① 西村勝治、小林清香、石郷岡純：LVAD 装着患者の精神的ケア。呼吸と循環 59: S22-23, 2011 査読なし
- ② Suzuki T, Shiga T, Kuwahara K, Kobayashi S, Suzuki S, Nishimura K, Suzuki A, Ejima K, Manaka T, Shoda M, Ishigooka J, Kasanuki H, Hagiwara N: Prevalence and persistence of depression in patients with implantable cardioverter defibrillator: a 2-year longitudinal study. Pacing Clin Electrophysiol 33: 1455-61, 2010 査読あり
- ③ 小林清香 チーム医療における認知行動療法の可能性-不整脈発作への不安から

退院を拒否した症例- 認知療法研究 認知療法研究. 2 34-37, 2009 査読なし

- ④ 小林清香・井上敦子・鈴木伸一・坂本薫・石郷岡純 社交不安障害に対する認知行動療法に基づく心理教育グループの実践 認知療法研究. 2 66-74, 2009 査読あり

[学会発表] (計 14 件)

- ① 市倉加奈子・松岡志帆・小林清香・鈴木豪・西村勝治・佐藤高栄・志賀剛・石郷岡純・萩原誠久・鈴木伸一 植込み型除細動器治療に対する患者の認識と不安との関連の検討, 第 67 回日本循環器心身医学会, 2010. 11. 27-28, 栃木
- ② 小林清香 精神的支援を専門家と連携してチームで取り組む/臨床心理士循環器疾患患者への精神的支援に関する研修モデルの開発研究会, 2010. 11. 6 大阪
- ③ 小林清香・西村勝治・鈴木豪・石郷岡純 重症心不全による長期入院中に生じた嘔吐恐怖に対する介入 第 10 回日本認知療法学会・第 23 回日本サイコオンコロジー学会合同総会, 2010. 9. 24-25, 名古屋
- ④ 小林清香 デバイスとメンタル問題 第 2 回植込みデバイス関連冬季大会, 2010. 2. 10-11, 東京
- ⑤ 小林清香 「植込み型除細動器利用者の作動に対するトラウマとその援助」 第 8 回日本トラウマティックストレス学会 シンポジウム: 身体疾患とトラウマ 2009. 3. 14-15 東京
- ⑥ Kobayashi S, Kuwahara K, Nishimura K, Suzuki S, Suzuki T, Kasanuki H, Ishigooka J Psychological effect of patients' attitudes toward implantable cardioverter defibrillator

in Japan. Academy of psychosomatic medicine 2008. 11. 19-22, Miami

- ⑦ 桑原和江・鈴木豪・小林清香・井上敦子・西村勝治・志賀剛 植込み型除細動器 (ICD) 植込み患者の抑うつ: ICD 作動との関連 第 65 回日本循環器心身医学会抄録集, 15, 2008. 11. 7-8, 横浜

[図書] (計 4 件)

- ① 西村勝治、小林清香: 移植医療におけるサイコセラピー: 生体ドナーへの心理的援助. 加茂登志子、上別府圭子 (編) 先端医療におけるサイコセラピー. 世論時報社 (in press)
- ② 小林清香、西村勝治: 臓器移植レシピエントとサイコセラピー. 加茂登志子、上別府圭子 (編) 先端医療におけるサイコセラピー. 世論時報社 (in press)
- ③ 桑原和江、小林清香、西村勝治、鈴木豪、萩原誠久: 心理的問題. 合併症の予防と対応. 奥村 謙 (編): 心臓リズムマネージメントを究める. メジカルビュー, 東京, 2009, 433-438.
- ④ 小林清香 腎疾患 鈴木伸一編著: 医療心理学の新展開-チーム医療に活かす心理学の最前線-北大路書房, 東京, 2008, 57-69

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林 清香 (KOBAYASHI SAYAKA)
東京女子医科大学・医学部・臨床心理士
研究者番号: 40439807